

工藤篤子メールマガジン第4号 2002.02.07

●ミハエルとアンドレア



お元気ですか？工藤篤子です。

今年のドイツは思ったより寒くなく、Schlechtes Wetter（あらし）の日もそう多くはないので、結構快適な日々を過ごしています。

ただしほとんどの日は暗い曇り空。

ところで我が家にはシクラメンの鉢植えがふたつあります。昨年秋、私がハンブルグにいない間、花に水をやってくれていた大家さんが、葉がたくさんになったから、と株分けしてくれたのでした。シクラメンの花は冬にしか咲きません。それで私は我が家のシクラメンの開花を、冬になるととても楽しみにしています。ひとつの鉢からはすでにいくつかの花が咲いていましたが、もうひとつの鉢からは、なかなか咲きませんでした。それが先週やっと二つの茎が伸びて花が咲いたので！と思ったら、あっという間にうなだれてしまいました。ところが3日前、久しぶりに一日中太陽が照りました。そうしたら、うなだれていた花が、輝く太陽に向かって、何とまっすぐに伸びたではありませんか！そのよみがえった花の姿を見たときの、何という喜び！

私たちが栄光の主を見上げるなら、このように生き生きと花咲くことができるのだなあ、とそのとき思いました。

♪♪♪

近況報告

日本へ行くまでにあと10日余り、まだ山のように残されている準備を思うと、あせりを感じている今日この頃です。でも、忙しい、忙しいとつぶやくのはやめ、昔よく教会で賛美していた曲、“Meine Zeit steht in Deinen Haenden.”（私の時はあなたの御手の中にあります）を口ずさむようになってから、パソコンが開くのを待ちながら主を賛美したり、コピーやプリントアウトの時に祈ったり、主のもつて安らぐチャンスを見つけることができるようになってきました。時間は主のもの、業も主が備えてくださるもの、これを忘れてはいけないと心する今日この頃です。

今、3月1日の札幌でのリサイタル（ドイツリートとスペイン歌曲）の準備をしています。この前のメルマガで、一般のクラシック歌曲の多くは、神を離れたところで人間の感情のひだを表現していてさびしくなった、と書きました。今は暗譜の段階に入って、かなり真剣に準備に取り組んでいますが、最近ふとこんなことを思いました。イエス様は、このような神を離れたところで起こる感情のひだを否定されているのだろうか、と。いや、そうではない、否定されているのではなくて、そのような人の思いを知って心が張り裂けるほど憐れんでいらっしゃるのだ、と。だからこそ、イエス様ご自身が私たちのすべての罪を身に受けて、平安と御霊の思いを与えようと、救いの道を開いてくださったのだ、と気が付きました。

しかし、御霊の実は、愛、喜び、平安、寛容、親切、善意、誠実、柔和、自制です。

・・・キリスト・イエスにつく者は、自分の肉を、さまざまの情欲や欲望とともに、十字架につけてしまったのです。（ガラテヤ5：22、24）

どうかこのリサイタルが、伝道のために用いられるようにお祈りください。

♪♪♪

祈ってください

歌の生徒のSさんとピアニストのTさん、L夫人のために。

♪ Sさん

この間、歌の生徒のSさんからメールが入りました。「この頃神様に感謝することがたくさんあるのですが、それをどうやって表現したらよいか教えてください。」

♪ Tさん

ピアニストのTさんは、聖書の学びをしたい、と言ってから、素直に聖書の話しを聞くようになりました。今日も私の伴奏の後、いろいろな質問をしたので、聖書に書いてあることを説明すると、目をキラキラ輝かせながら聞いていました。

SさんとTさんの共通点は、ユダヤ人に大変興味を持っていることです。それでこの二人には、ユダヤ人の歴史を通して神様のマスタープランを説明することができます。そして二人とも、我が家に来るたびに、本棚からいろいろなクリスチャン・ブックやユダヤに関する本を借りていって読みあさっています。

♪ L夫人

いつもはユダヤ人のL氏のことを書いていますが、今回は彼の奥さん、日本人であり、そしてピアニストのL夫人のことです。実は、つい最近、そろそろL氏に聖書をプレゼントしておいた方がいいのではないかと、主に祈っていました。ところが、一昨日奥さんと電話で話したとき、私の歌の生徒はまだクリスチャンではないけれど、神様に感謝することがたくさんある、それをどうやって表現したらよいか教えてほしいと言っている、と何気なしに言ったのです。

そうしたら彼女、

「あら、私知っているわよ。上を向いて、『神様、ありがとう！』って素直に言えばいいのよ。私もそうやって、しょっちゅう感謝しているもの。」

「エーッ、L夫人、神様を信じてるの？」

「ウーン、あなたのように信じてるとは言い切れない。でも神様は人間の罪のためにひとり子のイエス様を送ってくださったことは理解してるわよ。イエス様も神様なんですよ。」

「すごい！いつ、それが分かったの？」

「曾野綾子の本たくさん読んだから。そのへんのところは彼女がよく本に書いてた。」

「じゃあ、今度聖書プレゼントするから、読んでみてね。」

(この後しばらくイエス様の話しが続く・・・)

私の生徒のSさんが三浦綾子さんからなら、L夫人は曾野綾子さんからだったのです。数年前、たまたま

テレビの聖書講読の番組で曾野綾子さんの聖書解説を聞いたことがありました。その時、彼女の真実を見極めた目とみことばへの洞察力の鋭さに感心したのでした。それまで、単に彼女がカトリックということで偏見を持っていた私は、あの時、表向きで人を判断する自分を恥じたことを思い出しました。どうぞSさん、Tさん、L夫人のためにお祈りください。

♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪

最近感動したこと

私たちの教会に、ミヒャエルとアンドレアというご夫婦がいます。ふたりは、2年前に救われて私たちの教会に集うようになりました。彼らには5歳と3歳のかわいい男の子がいます。奥さんのアンドレアは3週間前、夜中、急にお腹が耐えられないほど激しく痛み、ミヒャエルはあわてて彼女を救急病院にかつぎ込みました。その結果、腹水がたまっていることが分かりました。そして腹部に出血まであることが分かりました。そのとき医師も彼らも多分ガンであると思ったのです。腹水まで溜まっているのですから、かなり末期です。アンドレアは死を覚悟しました。いつもは明るいミヒャエルの顔からは笑顔が消えました。アンドレアは子ども達のことを心配しました。自分が死んだら、子ども達があまりにもかわいそう。けれども、全能の主が子ども達を主の方法で成長させてくださるに違いない。「天のみ父よ、全てをあなたにお任せします。」そうやって毎日ふたりで手を合わせて祈っていたら、何ともいえない平安に満たされたそうです。私たちは、まだ信仰歴2年足らずの二人の姿勢に感動しました。1週間後、奇跡が起こりました。腹水が急に引いたのです。そして、お腹の出血は、なんと慢性盲腸炎によるものだということが分かりました。即刻盲腸摘出。そして、アンドレアは先週、元気な姿で礼拝に出席しました。ミヒャエルには再び笑顔が戻りました。ミヒャエルはこう言いました。「実は、僕は最近、信仰の危機に瀕していました。けれども妻のことで通して、全能の主の前にひれ伏すことと、主に全てを委ねることを学びました。」

感謝！

この次は、札幌から皆様にメルマガをお送りすることになります。（2月16日札幌到着）冬の間も皆様のご健康が守られますように、そして、平安のうちに過ごされますように。

工藤篤子

♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪